

令和7年度長久手市行政評価票（A票：事業評価票）					対象年度		令和6年度				
事業番号	111	事業名	アートスクール事業		担当課		生涯学習課				
			(中事業名) アートスクール事業		予算区分（款-項-目-中事業）		9-4-5-3 アートスクール事業				
					決算書ページ		233		～	233	一般
I 基本情報	総合計画	基本目標	5 いつでも どこでも 誰とでも 広がる交流の輪								
		政策	1 まちの資源を生かした市民同士の交流の促進								
		施策	(2) 文化芸術による交流								
	その他	開始年度	開館時								
		終了予定年度	年度	<input checked="" type="checkbox"/>	未定	市民・民間事業者との連携協働の可能性		両者と協働可			
		根拠法令等	文化芸術基本法、劇場・音楽堂等の活性化に関する法律								
		関連計画	ながくて未来図（長久手市第6次総合計画）（H31. 3） 第3次長久手市文化芸術マスタープラン（H30. 3）								
	事業の概要・目的	①事業概要 (どんな取組を行うのか)		②活動指標 (取組の進捗をはかるもの。また、それがどうなるのか)		③中間成果 (①【対象】がどのような状態に変わるのか)		④最終成果 (大事業の将来像)			
		【対象】 <input checked="" type="checkbox"/> 市民 <input type="checkbox"/> 事業者 <input type="checkbox"/> 職員 <input type="checkbox"/> その他 対象の数： 61000人 【事業内容】 文化の家の多機能性を活かした様々な分野の講座やワークショップを開催し、市民がアートを体験し、交流するためのきっかけづくりを行います。(R7は工事休館中のため短期講座や講演会、ワークショップの参加者数を目標値とする)		【アクションプラン指標】 新規受講人数 【その他の指標】 市民参加の延べ人数【受講者数】 (R7工事休館のため、他会場にて短期実施の数値) (R6, R8は一部工事休館のため調整)		市民に多様な芸術体験の機会を提供する場が増加する。  (成果指標名)  すべての事業での新聞等の掲載回数		市民が芸術体験を通して、豊かな心を育み、未来を生きる楽しみと希望を見いだしていく。また芸術活動を通じた市民活動に参加することで、人と人の絆を深め、誰もが孤立しない社会が形成されていく。		大事業共通	
II 活動状況（アウトプットの詳細）	活動指標名		単位	基準値 (2023年) 目標値 (2028年) ※AP指標のみ	区分	R6(2024) 年度	R7(2025) 年度	R8(2026) 年度	R9(2027) 年度	R10(2028) 年度	
	1	【アクションプラン指標】 新規受講人数 (R7工事休館のため、他会場にて短期実施の数値) (R6, R8は一部工事休館のため調整)	人	基準値 100 目標値 100	目標値 実績	100 78	100	100	100	100	
	2	【その他の指標】 市民参加の延べ人数【受講者数】 (R7工事休館のため、他会場にて短期実施の数値) (R6, R8は一部工事休館のため調整)	人	基準値 - 目標値 -	目標値 実績	100 78	30	30	100	100	
	3			基準値 目標値	目標値 実績						
	4			基準値 目標値	目標値 実績						
	事業開始の背景		文化の家は1998年の開館以来「人々が集い憩う、市民全体の「家」となしてほしい」「市民にとって芸術文化活動を展開し、地域の文化を発信する「わが家」を感じるような親しみ深い施設になしてほしい」という願いのもとに開館当初から策定された文化芸術マスタープランに基づき事業を企画、展開してきた。								
	各年度の取組、改善したこと。目標が達成できなかった場合はその理由										
	R6	市民が参加したいと思える気軽なアート講座を実施した。気軽さを重視するも、他ではやっていないような、フィドルやハーブなどの講座を展開し、民間との差別化を図った。ハーブは購入にかかる初期費用が必要だったせいか参加人数が伸びなかった反省がある。他の講座には、未就学時期の子どもに特化したアート体験を中心とした講座にも挑戦し、人気を得た。トータルの講座の数を削減したため、受講者数は減少した。			R7						
	R8				R9						

III 事業の成果・課題分析（アウトカムの詳細）	成果指標（CHECK）	成果指標名（中間成果をはかるもの）	単位	成果指標の推移と目標										
		すべての事業での新聞等の掲載回数	回	R4 年度		R5 年度		【現状】 R6 年度		R7 年度		R8 年度		
				52回		35回		38回		58回		60回		
		成果達成状況				指標目標値の根拠								
加える変化（ACTION）	C	A. 想定より良い B. 想定どおり C. どちらともいえない D. 想定を下回っている				事業の紹介記事が新聞等掲載されることは、広域への周知のみならず、事業の価値を客観的に市民に伝える根拠や裏付けとなるため。また来場者アンケートにおいて「新聞で見た」という来場者を把握し、市民の参加のきっかけとなっているかの調査もできる。								
		評価の理由、分析												
		アートスクールとしての新聞掲載回数は少ない結果となった。アートスクールはトピックが作りにくい事業ではあるが、もう少し、講師の活動とのリンクを考えて、参加者が事業に参加する機会を創出することが考えられる。実際フィドル教室の参加者は、アイリッシュデイズなどの文化の家事業に参加連携する機会があり、話題性が高かった。他事業も追随したい。												
		今後の方向性		今後の方向性の理由										
令和8年度予算の方向性（PLAN）	A	A. 拡充 B. 現状維持 C. 縮小 D. 廃止		文化芸術マスタープランに沿い、今後も文化や芸術によるまちづくりを推進し、シティプロモーションとして文化や芸術が根付き、芸術家が活躍する市として、PRできる事業展開をしていく。										
		改善ポイント												
		（成果指標を踏まえ、総合計画基本目標達成のため、必要性、有効性、効率性、公平性、歳入確保の観点等から見直しの余地のある取組を記入）												
		見直しの余地のある取組名	見直しの方向性	理由及び具体的な見直しの内容								見直し可能年度		
1	【改善】 アートスクール講座	<input type="checkbox"/> 拡充 <input checked="" type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止	形骸化を防ぐため、3年に1度、講座内容を変更していく。								R8			
2		<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止												
3		<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 改善 <input type="checkbox"/> 縮小 <input type="checkbox"/> 廃止												
IV 費用	令和8年度予算の方向性（PLAN）	R8年度の費用（R7年度比）		3年間の推移	（単位：千円）		R5(2023)年度		R6(2024)年度		R7(2025)年度			
		A	A. 拡充 B. 現状維持 C. 縮小 D. 廃止		事業費	予算	決算	予算	決算	予算				
			2,647			2,574	2,637	2,270	671					
		理由			特定財源	合計額	2,375	1,436	2,637	1,253	637			
		R7は工事休館によりホール事業が実施不可のため、大幅な予算削減があった。R8以降はR6と比較して予算規模を2割削減する。 方向としては縮小となるが、前年度R7との比較という意味では、予算的には拡充と見えるため、拡充としておく。				(内 国費)								
						(内 県費)								
						(内 諸収入)	2,375	1,436	2,637	1,253	637			
		積算額			一般財源	272	1,138	0	1,017	34				
		事業内容未定のため未記載			R7年度予算の内訳 ＜細々節名、 予算額、（R6年度予算額）＞ 消耗品費 11千円（22千円） 事業・公演等委託 0千円（500千円） 講座・講演等報償金 660千円（2,115千円）									